

研修会報告

平成 31 年 2 月 6 日

文責：生理検査部門 佐藤 貴光

研修会テーマ「知って得する脳波の知識」

開催日時 平成 31 年 2 月 2 日（土）12：45～16：10

会場 仙台市立病院 3階講堂

・「EEG ヘッドセット～救急での脳波検査～」日本光電

・講演 1「知っておきたい！脳波検査の 10 のこと」

講師：弘前大学医学部附属病院 医療技術部 原 悦子 技師

座長：仙台市立病院 若月 悠 技師

・症例検討

講師：東北大学病院 板橋 泉 技師

仙台市立病院 金野 美樹 技師

座長：仙台赤十字病院 西尾 太一 技師

・講演 2「デジタル脳波時代を見据えたこれからの脳波検査」

講師：広南病院顧問医/仙台神経生理ラボ 大沼 歩 先生

座長：仙台厚生病院 石田 啓介 技師

生涯教育点数：専門 20 点

参加者：会員 81 名 賛助会員 1 名 非会員 5 名 計 87 名

内容

今回の研修会は「知って得する脳波の知識」と題し、脳波検査・判読のスペシャリストにご講演頂いた。

まず始めに、日本光電より EEG ヘッドセットを紹介頂いた。救急医療において、非けいれん性てんかん重積状態の早期発見に有用であるとのことであった。

講演 1 では、まさに脳波検査を行う技師が押さえておくべきポイントを分かりやすく解説頂いた。てんかん発作の症状と脳波の変化等を、実際の記録動画を通して学ぶことができ非常に有意義な内容であった。依頼目的を正しく理解し、臨機応変に検査の流れを組み立てる事が、有益な検査の土台となるとのことであった。

症例検討では、ケトン食療法が著効した徐波睡眠時持続棘徐波を呈するてんかん、低血糖脳症の異常脳波について発表頂いた。いずれもコメンテーターの先生方からの的確なアドバイスを頂き、日常遭遇する疑問を解決する一助となった。

講演 2 ではデジタル脳波のメリットから、脳波判読まで幅広く解説して頂いた。てんかん性放電と良性バリエーションの鑑別、検出感度を上げるためのポイントなど、日常検査に直結する知識を学ぶことができ、多くの参加者にとって貴重な内容であったと考えられる。

貴重な神経生理分野の研修会という事もあり、今回は県内外から多く参加頂いた。今後も多くの宮城県臨床検査技師会員にとって価値ある研修会を開催していきたい。